

血液・造血器疾患

科目責任者 三 谷 絹 子

学年・学期 6 学年

I. 前 文

本講義で取り扱う血液学の主な対象は、①造血器（骨髄，リンパ節，脾）およびそこで産生される血球（赤血球，白血球，および血小板）とその異常，②止血機構（各種凝固因子の他，前項の血小板も含まれる）とその異常，および③治療法（輸血及び造血幹細胞移植）とに大別される。①と②の異常は通常血液疾患と呼ばれる。③の知識は血液疾患などに対する内科的治療のほか，外科手術にも必要とされる。

血液内科学は臨床の分野で最も早く分子生物学が導入された領域であり，その技術が診断（遺伝子診断）・治療（分子標的療法）に応用されている。これらの最先端の知識についても解説する。

II. 到達目標

国家試験問題に取り組むための基本的知識を身につけることを到達目標とする。

III. 求められる事前学習，事後学習

求められる事前学習：系統講義の資料を復習する（4h）

求められる事後学習：過去のI卒の試験問題を解く（4h）

IV. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	7	13	火	1	血液・造血器疾患（貧血）	内科学（血液・腫瘍） 佐々木 光
2		13	火	2	小児の血液疾患	小 児 科 学 佐 藤 雄 也
3		13	火	3	血液・造血器疾患（リンパ系疾患）	内科学（血液・腫瘍） 市 川 幹
4		13	火	4	血液・造血器疾患（出血・血栓性疾患）	内科学（血液・腫瘍） 中 村 由 香
5		13	火	5	血液・造血器疾患（白血病）	内科学（血液・腫瘍） 三 谷 絹 子

V. 評価基準（成績評価の方法・基準）

学期末試験の成績及び出席点

VI. 医師国家試験出題基準（平成30年版）における区分

- 各論Ⅶ血液・造血器疾患
- 1 赤血球系疾患
 - 2 白血球系疾患とその他の骨髄性疾患
 - 3 リンパ系疾患
 - 4 出血性疾患と血栓傾向
 - 5 その他の重要な小児領域の疾患

Ⅶ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	